

# 令和7年（2025）10月 入域観光客数概況（確定版）

98万6,100人  
対前年（R6）同月比 +9万9,200人、+11.2%  
～10月としては過去最高～

【更新履歴】①令和7年11月25日速報版公表  
②令和8年1月26日確定版公表

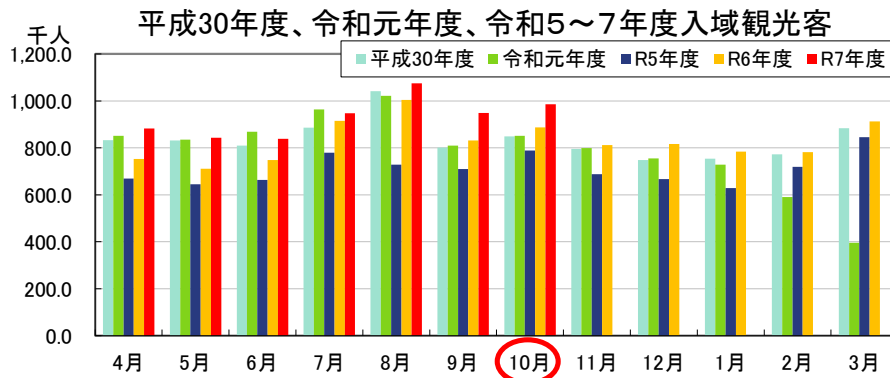
※ 外国人観光客数の国別の内訳及び確定値については、出入国在留管理庁公表資料を参照しており、同庁公表後に県の公表となります。そのため、1月公表の本確定版において、外国人観光客に係る「入域状況」、「国籍別入域状況」及び「空路・海路の国籍別入域状況」を2枚目に追加しています。

## 入域状況

入域観光客数（R6年度と※R元年度との比較）

区分	R7年度	R6年度	増減数	増減率	構成比	※R元年度
国内客	725,200 人	694,500 人	+ 30,700 人	+ 4.4%	73.5%	620,800人
空路	721,300 人	688,600 人	+ 32,700 人	+ 4.7%	73.1%	615,200人
海路	3,900 人	5,900 人	△ 2,000 人	△ 33.9%	0.4%	5,600人
外国客	260,900 人	192,400 人	+ 68,500 人	+ 35.6%	26.5%	230,500人
空路	181,700 人	123,800 人	+ 57,900 人	+ 46.8%	18.4%	123,100人
海路	79,200 人	68,600 人	+ 10,600 人	+ 15.5%	8.0%	107,400人
合計	986,100 人	886,900 人	+ 99,200 人	+ 11.2%	100.0%	851,300人

※外国客には、海路における乗務員等24,800人を含む。



## 国内客 入域状況

10月は、修学旅行の入込みシーズンを迎えるほか、航空会社の増便・臨時便の運航、国内・県内発着クルーズの寄港があったこと等により、前年同月を上回った。特に、東京・関西・福岡・名古屋方面からの観光客は過去最多を記録し、国内客総数においても過去最多となった。

## 国内客 地域別入域状況

区分	R7年度	R6年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	355,600 人	347,500 人	+ 8,100 人	+ 2.3%	49.0%
関西方面	148,300 人	143,200 人	+ 5,100 人	+ 3.6%	20.4%
福岡方面	92,200 人	87,700 人	+ 4,500 人	+ 5.1%	12.7%
名古屋	60,900 人	54,700 人	+ 6,200 人	+ 11.3%	8.4%
その他	68,200 人	61,400 人	+ 6,800 人	+ 11.1%	9.4%
合計	725,200 人	694,500 人	+ 30,700 人	+ 4.4%	100.0%

## 参考：国内線経由入域外国人数

地域別	R7年度		R6年度		主要国・地域
	人数	シェア	人数	シェア	
北米	23,600	43%	14,700	49%	アメリカ合衆国、カナダ等
ヨーロッパ	12,200	22%	5,700	19%	イギリス、ドイツ、フランス、スイス、イタリア、スペイン、ベルギー、オランダ、ポーランド、オーストリア、チェコ、デンマーク、スウェーデン、ロシア等
アジア	9,200	17%	4,100	14%	中国、香港、台湾、韓国、ASEAN、インド等
オセアニア	1,600	3%	900	3%	オーストラリア、ニュージーランド等
中米・南米	600	1%	500	2%	ブラジル、メキシコ、アルゼンチン等
その他	8,400	15%	4,100	14%	
合計	55,600	100%	30,000	100%	

※航空会社ヒアリングにより推計値を算出（推計方法が異なるため、年度比較に留意）。  
※推計値のため、国内客数に対する厳密な内数ではない。

## 外国客 入域状況

10月は、航空路線において那覇－清州路線（10月1日～）の新規就航があったことや、台湾・中国本土発着のクルーズ船の寄港回数が増加したこと等から前年同月を上回った。特に、台湾・韓国からの観光客は過去最多を記録し、外国客総数においても過去最多となった。

トピック ▶【台湾】日本トランスオーシャン航空は那覇－台北路線（2月3日～）をデイリー運航で新規就航予定。また、スターラックス航空は下地島－台中路線（2月13日～3月27日）を週2便で新規就航、下地島－台北路線（2月12日～3月26日）を週2便で運航再開予定。

## 外国客 国籍別入域状況

区分	R7年度	R6年度	増減数	増減率	構成比
台湾	106,600 人	67,200 人	+ 39,400 人	+58.6%	40.9%
韓国	50,500 人	36,000 人	+ 14,500 人	+40.3%	19.4%
中国本土	39,900 人	32,100 人	+ 7,800 人	+24.3%	15.3%
香港	17,000 人	13,200 人	+ 3,800 人	+28.8%	6.5%
アメリカ	4,700 人	7,900 人	△ 3,200 人	△40.5%	1.8%
タイ	2,400 人	1,900 人	+ 500 人	+26.3%	0.9%
シンガポール	1,000 人	1,800 人	△ 800 人	△44.4%	0.4%
その他	38,800 人	32,300 人	+ 6,500 人	+20.1%	14.9%
合計	260,900 人	192,400 人	+ 68,500 人	+35.6%	100.0%

※「その他」には、海路における乗務員等24,800人を含む。

## 外国客 空路・海路の国籍別入域状況

区分	空路				海路			
	R7年度	R6年度	増減率	構成比	R7年度	R6年度	増減率	構成比
台湾	85,800 人	54,800 人	+56.6%	47.2%	20,800 人	12,400 人	+67.7%	26.3%
韓国	49,500 人	35,700 人	+38.7%	27.2%	1,000 人	300 人	+233.3%	1.3%
中国本土	17,000 人	9,400 人	+80.9%	9.4%	22,900 人	22,700 人	+0.9%	28.9%
香港	14,400 人	11,900 人	+21.0%	7.9%	2,600 人	1,300 人	+100.0%	3.3%
アメリカ	2,600 人	2,300 人	+13.0%	1.4%	2,100 人	5,600 人	△62.5%	2.7%
タイ	2,000 人	1,800 人	+11.1%	1.1%	400 人	100 人	300.0%	0.5%
シンガポール	700 人	1,700 人	△58.8%	0.4%	300 人	100 人	+200.0%	0.4%
その他	9,700 人	6,200 人	+56.5%	5.3%	29,100 人	26,100 人	+11.5%	36.7%
合計	181,700 人	123,800 人	+46.8%	100.0%	79,200 人	68,600 人	+15.5%	100.0%

※海路の「その他」には、乗務員等24,800人を含む。

## 外国客の地域構成比

